

① 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立日限山小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4時間	学校周辺 (7月20日)	○一人一人めあてをもって、街の魅力を見つけ出す。		・住んでいる街だが、知らないことがたくさんあった。 ・詳しく知っている方にお話を伺いたい。 ・もう一度、取材した方がいいと思う。
4時間	教室 (9月29日)	○地域の様子についてさらに知りたいことを街の人から伺う。 ○街の魅力を再発見するための課題をもつ。 (環境・歴史・福祉に)		・普通の街だと思っていたが、街のために多くの人が関わっていることが分かった。 ・話だけでなく、もう一度実際に歩いて調べてみたい。
4時間	学校周辺 (10月27日)	○街の魅力を探して、地域の方々とは街探検に出かける。 ○街について、もっと知る。		・自分の街の魅力に気付いた。 ・街の景観を豊かにしようと、公園愛護会の人たちが花を花壇に植えて育てていることが分かった。
2時間	学校	○小小連携、花を育てる活動に取り組む。		・近隣小の花を増やす活動と一緒に、ふたつの街の景観を豊かにしてみたい。
3時間	学校 学校周辺 (11月29日)	○1年生にも呼び掛けて、地域の方々とは街に花を植えて、景観を豊かにしていく。 ○ふたつの街を花でつなげて、どちらも魅力的な街にする。		・花を植えると街の色彩が豊かになった。眺めもよくなった。 ・多くの人がたくさん参加して、楽しかった。新聞の取材にしっかり応えられた。
4時間	学校 (3月5日)	○活動のまとめ、街の魅力についての自分の振り返りを新聞やパンフレットにして発表する。		・公園や、街のいろいろなところで花を育て、景観を豊かにしている方々がいることがすごいと思った。 ・街の魅力をアピールできた。

② 学習指導案

単元名 (全15時間)	「レッツゴー！ 日限山」 ～花でふたつの街をつないで、街の景観を豊かにしよう～
学習のねらい	地域の方々や友達との意見交換を通して、当たり前のように思っていた街の存在に課題を見つけ、自分ができることに取り組むことができる。
学習内容	1 地域の方々にお話を伺って、日限山をもっと知ろう① 2 地域の方々にお話を伺って、日限山をもっと知ろう② 3 小小連携、花を植えてふたつの街の景観を豊かにしていこう 4 街の魅力を新聞やパンフレットにして伝えていこう
参考資料 準備品 実施場所等	購入品：花（パンジー）、プランター、土、メッセージボード、ニス、刷毛 協力者：地域の方々、タウンニュース・FM戸塚（報道）、港南区役所 活動場所：日限地藏尊、地域ケアプラザ、バス停、交差点等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
6時間	○地域の方々にお話を伺って、日限山をもっと知ろう ・話を聞いたり、疑問に思ったことを質問したり、実際に出かけたりして、街の魅力について課題をつかむ。	・街の魅力について子どもたちは環境・歴史・福祉について個人の課題に取り組むが、公園愛護会の方々が取り組む景観を豊かにする活動に焦点を当てるようにする。	・一人一人が自分の課題をつかむことができたか。 ・街の景観を保つため、地域の方々が活動していることが分かったか。
5時間	○地域の方々が取り組む景観を豊かにする活動に自分たちも参加しよう ・小小連携で、花を育てて街の景観を豊かにし、ふたつの街をつなげていく。	・近隣校が取り組む花を増やす活動と、本校が取り組む景観を豊かにする活動を重ね合わせ、地域の方々と共に花でふたつの街をつなげる活動にあたっていく。	・多くの方々との協力で、景観を豊かにする活動に取り組めたか。
4時間	○街の魅力を新聞やパンフレットにしてまとめよう ・自分が取り組んだことを地域の方々に伝える。	・達成感が豊かに味わえるよう、中学校や高等学校、区役所、報道機関等との連携も図っていく。	・自分たちが取り組んだ活動をまとめ、伝えることができたか。

<留意点>

- ・地域の方と共に活動することによって、学校との絆を一層豊かにすることができる。
- ・街のよさに改めて気づき、今後の自分の課題について考えることができる。
- ・今後の小中高の連携につなげるようにしたいので、次年度以降もこの事業を継続させるようにする。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

○児童も指導者も、活動に柔軟に取り組むようにしたこと

「景観まちづくり」の活動が年度当初からは無かったため、どの学年が取り組みやすいのか、既に始まってしまっている途中から引き受けていける学年はあるのか、等の心配があった。“こうしなければならない”というものがあると、それが足かせにもなりかねないので、活動を進めながら、発見したことを整理して「景観」に繋げていければという姿勢で臨んだ。公園愛護会の方々が、景観を日頃から大切にしていることが分かったため、そこに少し重点を置くようにした。また、この事業を受けるに当たって、近隣校との連携を進めていくことが前提としてあったため、ただ眺めるだけのまちではなく、自分たちの手で景観を豊かにしていくという“攻めの学習活動”にしていくことも重点を置き、花を育て増やして二つのまちを繋ぐことにも発展させていくことにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

近隣校との交流を前提とした「景観まちづくり」の活動であった。教員間では授業計画について活発な意見交換がされ、準備が進められていたが、学校事情で相手校との交流授業ができなくなるなど、失速する場面があったのは事実である。逆に、地域関係者へは話は予想以上に進んでしまったため、途中から1年生に応援を求めることになってしまった。

(3) 児童の反応

普段、当たり前のように思っていた「まち」が、多くの人たちによってよりよく創られていたことに感心した様子が見られた。発表の中で、地域の方々への感謝と共に、今後の自分の役割についても考えている様子が見られて、今回の活動が子どもたちに新たな視点をもたらしたように感じた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

地域の方々存在を感じながら、学習活動を積み重ねていくことに本校の教職員は経験が浅い様子が当初から見られた。今回は校長からのトップダウンされた学習活動であったが、担当教諭も担当外教諭も、社会に開かれた学校としてのカリキュラムマネジメントに実際に触れることができ、教師としての経験値を高めることになったのではないかと考える。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

ただ単に地域を巡り歩く活動ではなく、学校が地域を繋ぐ要になっていることを認識できる活動になったと考える。どの家にも庭先に花が植えられ、まちの景観をよりよく保とうとみんなが努力している様子も分かり、学校が地域の一員として活動していかなければならないという使命も感じた。今年度だけで終わらせることなく、今後も継続して活動に取り組んでいくことを近隣校と確認しているところである。